

新潟・前波南遺跡

- 1 所在地 新潟県糸魚川市大和川字前波
- 2 調査期間 一 二〇〇六年(平18) 四月～八月、
二 二〇〇七年四月～八月
- 3 発掘機関 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 4 調査担当者 一 春日真実、二 石川智紀
- 5 遺跡の種類 一 集落跡、二 散布地
- 6 遺跡の年代 縄文時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(糸魚川)

前波南遺跡は、前川右岸の海岸砂丘と丘陵間の沖積低地に立地し、標高約四m。古墳時代と古代を主体とする溝、ピット、杭、旧流路などを検出した。居住の痕跡は検出できなかったが、古墳時代や古代における低地や河川の利用方法の一端が窺える。

木簡は各年度一点ずつ出土した。二〇〇六年度調査

において、弥生時代から中世にわたって形成された旧流路から一点、二〇〇七年度調査において、溝(SD二)が調査区中央の旧流路と合流する付近から一点、計二点が出土した。

8 木簡の釈文・内容

- 一 二〇〇六年度調査

(1) 「出雲」

(108)×23×2 059

上端は山形で、下端は欠損する。八世紀後半～九世紀の土器とともに出土した。

- 二 二〇〇七年度調査

(1) 「出雲真山」

172×25×3 051

スギ材を板目取りしたもので、長方形の材の左右を削り、下端を鋭角に尖らせる。「出雲真山」は人名か。「出雲」の字体は、福井県越前町田中遺跡出土墨書土器(九世紀前葉)の「出雲」に似る。当木簡も平安時代の所産か。伴出した木材の放射性炭素年代測定の結果からも古代に帰属すると考えられる。

釈読にあたっては、田中一穂氏、島根県立古代出雲歴史博物館の森田喜久男氏のご教示を得た。

